

本場奄美大島紬産地における機業家の役割について

遠藤吉樹（経営学部）

高級先染織物として知られる大島紬は、名瀬市を中心として奄美大島群島地域を生産地とする奄美産地と鹿児島市とその周辺地域をふくむ鹿児島産地で生産されている。両産地とも和総需要の低迷の影響を受けて生産数量、生産金額を大きく減らしているが、生産品種に注目するとその内容は大きく異なっている。

もともと力織機化が進んでいる鹿児島産地では手織機で織られる経緯緋の割合が年々低下しているのに対して、奄美産地では手織機を用いて製織される経緯緋が生産数量の大半を占めており、その割合も高いままほとんど変化していない。その生産内容に注目すると、厳しい市場環境のなかで奄美産地は男物から女物に生産の重点を移し、そのなかでも 15.5 算、7 マルキ、9 マルキの高級、高額品、そして染色では泥染めという他産地が対抗できない奄美産地特有の伝統を生かした高級品の生産することにより対応しようとしていることに気づく。

このように生産するものが高級品になればなるほど市場要請を十分に収集、分析し、それを満足させる製品を生産しなければ市場に受け入れられない。そのような消費者の要請を満足させる製品を設計し、生産するためには、つぎの二つの局面での統合、調整が重要であると考えられる。

一つは、製品諸要請を十分に満たす製品を設計するための企業外部の市場の消費者、流通業者の製品に対する要請と、製品化手段の結合の可能性とその制約を調整し、製品設計に必要な具体的特性の組み合わせを形成するための総合、調整活動であり、他の一つは、生産工程において消費者の諸要請を充足可能な製品設計に適合する物性を有する製品を製造するための生産工程内部の調整である。

小論では奄美産地でこの二つの統合、調整の活動が機業家によりどのように遂行されているのか検討を試みた。

まず社会的分業組織で生産が行われている奄美産地の生産工程と社会的分業による生産体制を詳しくみた上で、製品設計に適合した物性を有する製品を製造するために各工程間の調整が機業家によりどのように行われているのかということについて検討を行った。続いて、かつて集散地問屋により原図の指定を受け製織してきた誂え品の割合が近年、低下しているなかで、製品設計が行われる工程である図案工程で市場要請の把握、市場要請と製品設計に関連する特性の組み合わせの調整がどのように行われているのかということについて機業家に対して実施した聞き取り調査の結果をもとに考察を試みた。